

1

説明的文章(1)

◆指導ページ P.2～7◆

【指導のポイント】

- ★指示語の指す内容を的確に捉えさせる。
- ★接続語の働きに注意させ、文章の内容をつかませる。
- ★筆者の意見と具体例を区別させる。

確認問題		問題ページ
(P5)	(1)	問題番号
(6)	(2)	指導内容・留意事項など
(5)	(3)	
(4)	(4)	
(3)	(5)	
(2)	(6)	
(1)	(P4)	問題番号
	(1)	指導内容・留意事項など

同じ段落の内容を要約させ、この段落では「ほとんどの野菜のほとんどの栄養素が、減少している」ことを述べていることを捉えさせる。そのうえで、現代人の野菜不足も深刻現代では野菜自身が栄養①この二つの表現が対応していることをつかませる。

A 直前と直後に注目させる。直前には「野菜は……もともとは非効率な存在」、直後には「効率を求める現代社会に生きる野菜は……」とあり、逆接の接続詞があてはまる。

B 直前の要約「ブルームは、農薬がついていると疑われる」↓直後の要約「ブルームを嫌う消費者ニーズに合わせてブルームの出ないキュウリが開発された」の流れより、エが最適。

A 直前に「ブルーム」とある。「文章中から二字」という指示に注意して、最適な箇所を抜き出させる。

B 直後に「働き」の同意表現「役割」があることに注目させる。「水をはじめたり、病害虫を防ぐ役割があった」を、設問の趣旨に沿う形でまとめさせる。

「それ」という指示語は、直前部分の内容を指すことが多い。「それだけではありません」の直後にはキュウリが病気に弱くなったことが書かれているため、「それ」はキュウリにとってよくないことを指すことを捉える。

A キュウリに本来あった「ブルーム」が奪われたことで、キュウリが病気に弱くなったことを理解させる。「病気に弱くなった」ことではなく、その原因を書かせる。

B 人間にとっての影響は、傍線部の直前にある。

本文の最後の「そうやってほしいと願わずにいられません」に注目させ、36行目～傍線部直前までに筆者の言いたいことがあることを理解させる。

「野菜が野菜らしく、人間が人間らしく」という表現が、設問の「本来の姿」と同義であることを理解させる。

重要語句
 ○効率⇨使った労力に対する、得られた成果の割合。
 ○ニーズ⇨必要。要求。需要。

演習問題		問題ページ
(P7)	(1)	問題番号
(7)	(2)	指導内容・留意事項など
(6)	(3)	
(5)	(4)	
(4)	(5)	
(3)	(6)	
(2)	(7)	
(1)	(P7)	問題番号
	(1)	指導内容・留意事項など

人間の特徴について第一段落で述べられていることに注目させ、傍線部の直後の部分から該当する部分を抜き出させる。

A 直前の内容についての例を挙げているので、オが正答。

B 直前の内容に反することを直後で言っているため、この選択肢の中から適切なものは、前述の事柄に対して、その条件や例外などを示す「ただし」。

直後の「人間が自然を変えたと思っても」に注目させ、その同意表現が使われている選択肢を選ぶ。

他の重要な対義語について知識を整理させるとよい。

○ 失敗⇨成功 権利⇨義務 困難⇨容易

傍線部と同段落で、自然の回復のしかたについて述べられている。「変化以前の状態と同じものにはならない」の後の「新しい形の環境として安定していくのである。」が「一文」という設問の指示にも合致している。

次の段落において、具体例を挙げながら説明していることを理解させる。「近代化」「自然保護」の一方に偏っても解決できないことを、「環境を維持するために……保護だとして木一本伐れないのも困るし……近代化と称して何もかも壊してしまうというやり方でも困る」と具体的に説明している。

33～34行目に「人間の文明のありように対応した環境の変化が、一方で避けられない」、48～49行目に「人間の英知をもって環境を大きく変える能力があるかもしれない」とあることから、人間と環境が共存していくというエが最適となる。

重要語句
 ○変革⇨物事を変えて新しくすること。また、変わって新しい物になること。
 ○英知⇨すぐれた知恵。
 ○理念⇨物事のあるべき状態についての基本的な考え。

2

説明的文章(2)

◆指導ページ P.8～13◆

【指導のポイント】

- ★段落ごとの要点を捉えさせる。
- ★指示語の指す内容や同意表現をおさえながら、文章を読み取らせる。
- ★筆者の最も述べたいことを理解できるようにする。

確認問題		問題ページ
(8)	(7)	(1)
(6)	(5)	(2)
(4)	(3)	(3)
(2)	(1)	(4)
(1)	(1)	(P11)
(1)	(1)	(P10)

重要語句

- 変換⇨あるものを別のものに変えること。
- 錯覚⇨対象の客観的事実を違ったものに知覚すること。勘違い。

演習問題		問題ページ
(6)	(5)	(1)
(4)	(3)	(2)
(2)	(1)	(3)
(1)	(1)	(P13)

重要語句

- 依存⇨他に頼って存在、または生活すること。
- 排除⇨おしのけてそこからなくすこと。

指導内容・留意事項など

指導内容・留意事項など

小説文(1)

【指導のポイント】

- ★登場人物の会話から心情を理解させる。
- ★登場人物の表情に注意させ、心情を捉えさせる。
- ★場面、背景を的確に捉えさせる。

確認問題		問題ページ
(6)	海が近いことに安心した	(P16)
(5)	自分は釣りが得意である	(1)
(4)	バカにされるのではという不安が消えた	(2)
(3)	というヨウイチの気持ちの変化を理解させる	(P17)
(2)	「これ、海のおい？」	
(1)	「十時じゃけえ、そろそろ帰るか」という記述に注目させ、場面の変化と時間の経過を表していることを確認させる。この会話のきっかけとなるのはサイレンの音が鳴ったためであるので、「造船所のサイレンが聞こえた」のところで分けられる。	

重要語句

- 遠浅＝海や川の岸から遠方まで水の浅いこと。また、そのような所。
- スメバミヤコ＝住めば都。どんな所でも住み慣れるとそこが居心地よく思われてくるという意味。

指導内容・留意事項など

演習問題		問題ページ
(7)	「落ちない」という表現が共通していることに注目させる。このことから、信一が、落ち込まないという自信を持ったのである。	(P19)
(6)	直前の父の「人間の悩みなんて……解決はつかない」という言葉や、「溜息とともに」という様子から、父がしみじみと感慨にふける心情を理解させる。	(1)
(5)	激流＝「父は子供の頃からここに何度もきたのに、もちろん落ちなかった」	(2)
(4)	「信一にもこれ以上気分が落ち込まないですむ」	(3)
(3)	梅ヶ丘をあきらめる こと	(4)
(2)	胸の内につまっていた こと	(5)
(1)	21行目「明日なあ、いいところにつれていってやる」から、25行目以降の出来事とは時間や場面が異なることを理解させる。前半部分は信一と父が寝床で会話をしている、後半部分は「秘密の場所」での二人のやりとりが描かれている。	

指導内容・留意事項など

小説文(2)

【指導のポイント】

- ★登場人物の人間関係を捉えさせる。
- ★登場人物の言動から心情を読み取らせる。
- ★文学的表現に注意させ、表現している内容やその効果を捉えさせる。

◆指導ページ P.20～25◆

確認問題		問題ページ
(6)	(5)	(1)
(4)	(3)	(2)
(3)	(2)	(P23)
(2)	(1)	(P22)

指導内容・留意事項など

小説文などでは、行動から心情を読み取らせる問題が出されることが多い。「溜息を洩らす」というのはどういう心情を表しているものなのかを理解させる。悲しみや落ち込まず気持ちはかき回しているものであることや、修がこのとき水浴びに出かけられなかったことを悔やんでいることを捉えさせる。

傍線部の前後で、庄は土蜂捕りに詳しく、修に対して優位にたっているような態度で土蜂捕りにのぞんでいることが読み取れる。また、直前部分の「まるで釣師のような口ぶり」という記述からも、庄の得意げになっている様子が読み取れる。

④ 太股の肉についた白い真綿

＝

白い真綿の目印＝土蜂が運んでいる

このことより、真綿の動きに注目すればよいことがわかる。「真綿の目印は宙をふらふらと移動していく。」の一文が最適である。文を書きぬくため、最後の「。」まできちんと書く必要があることを確認させる。

⑤ 傍線部の直前に理由が書かれている。理由を説明することが求められるため、文末を「～から。」などとすることを指導する。

セイジの行動に注目させる。直前の「セイジの悲鳴が上つ」てから水音が聞こえたので、セイジに関して起こった音であると推測できる。そのあとの「セイジが田圃の泥の中に倒れこんでいた」から、セイジが泥の中に落ちた音だと読み取れる。

「ススキ」と庄の姿がどのように重なり合っているのかを読み取らせる。

＝

ススキの青々とした野原

＝

庄の姿が野原の中に見え隠れ

このことから、ススキの高さが庄の身長と同じくらいであると推測できる。小説文では、描かれている様子を、記述の内容から読み取れる情報をもとにして頭の中で思い浮かべながら読んでいくと理解が深まることを指導する。

修は、最初は水遊びに行けなかったことを悔やんで、しぶしぶ庄との土蜂捕りにつきあっているが、土蜂がかかってからは、だんだん土蜂捕りに夢中になっているという本文の流れを捉えさせる。

演習問題		問題ページ
(5)	(4)	(1)
(3)	(2)	(P25)

指導内容・留意事項など

30行目の「三日前……問われたことを思い出す」に注目させる。その後からは、三日前のことが描かれているため、回想の場面となる。「それだけの会話だったが、いまこうして」というところからは、「いま」のことを述べているため、この直前までが三日前に起きた出来事である。

一羽の角鷹が、自分の腕に乗っている

＝

自分が鷹を据えた姿＝夢にまで見た姿・信じられない

←

様々な感情が渦を巻き、歓喜を伴う

「冠羽が寝かされている」ということが、「鷹が緊張しないで落ち着いている」という様子であることを読み取らせる。直前に「明かりを点けたとき」とあるので、アの「ロウソクの明かりが暗くなり」は当てはまらない。「瞬だけ逆立った」とあるので、イの「少しずつ」というのは不適。また、鷹はロウソクの明かりで目覚めたわけではないのでウも不適となる。

師匠が言いたいことは、25行目から27行目に書いてある。このことととも、岳央は師匠との三日前の会話のやりとりを回想しているので、25行目から27行目の内容をまとめていくようにすればよい。

「その姿」というのはどのような姿なのかをまず捉えさせる。

角鷹は、相変わらず超然としたまま、そばの人間を半ば無視するように籠手の上に佇んでいる

＝

岳央には、その姿がむしろ頼もしく見えた

このことを確認し、選択肢の中から最適なものを選びさせる。アは「愛情がひそかに伝わっている」が適さない。イは「何事にも関心を示さない」が不適。エは、「人間に不慣れ」という点が不適である。

重要語句

○孤高＝俗世間から離れて、ひとり自分の志を守ること。

○超然＝物事にこだわらず、平然としているさま。

随筆文

【指導のポイント】

- ★筆者の感じたことを読み取らせる。
- ★たとえを用いた表現に注目させる。
- ★筆者の伝えたいことを理解させる。

確認問題		問題ページ 番号	指導内容・留意事項など
(4)	(3)	(2)	(1)
<p>最後の四行に注目させる。このようなやりとりができる医師は信頼されると筆者はいいたいのである。「医師と連帯感ができたような気がする」とはどうしてなのかを考えさせる。また、そのあとの「希望」から「治る」という希望を患者に持たせるといこともまとめさせる。</p>		(P29)	<p>傍線部の「つねに人格者であれと要求する」 ＝ 7行目「医者に仁医であってくれと願う」 であることを捉えさせる。「医者に仁医であってくれと願うのは」の後の「患者というものが医者以外に…」のところを理由になっている。</p> <p>19～27行目の記述に注目させる。「オーバーに説明しすぎる」人と、「控え目」に告げる患者の具体例が示されている。</p> <p>・「オーバー」：21～23行目に具体例がある。「そのべたほうが不安感を除去してくれるような心理になって」のところからまとめ。</p> <p>・「控え目」：24～26行目に具体例がある。「自分で自分を安心させたいために病状を軽く告げる患者もいる」のところからまとめ。</p> <p>④ 米国帰りの若い先生「三度目の手術の麻酔をやってくれた先生である。この時にほとんど痛みを感じなかったため、筆者はその理由を知りたかったのである。人に尋ねるときにふさわしい文体で書くことを確認させる。</p> <p>③ 38～39行目「先生はこう答えた」に注目し、その直後から最も適した「一文」を捉えさせる。</p>
<p>重要語句</p> <p>○オーバー⇨おおげさなようす。</p> <p>○連帯感⇨お互いが結びついているような感覚。</p>			

演習問題		問題ページ 番号	指導内容・留意事項など
(5)	(4)	(3)	(2)
<p>理科教室で感じたこわさと同じこわさだった。</p> <p>「こわい」という表現が共通して使われていることを確認させる。こわい気持ちを強調する効果がある。</p> <p>傍線部の前後の部分から理由を読み取らせる。直前で、おばさんが水をあげた花が生き返ることを、筆者が想像して気持ちよくなっている。よって、「花が生き返る」とこと「気持ちいい」ことを述べているのが最適となる。</p>		(P31)	<p>辞書をひかせて、意味を確認させるとよい。</p> <p>① 「得体」は、「真の姿」という意味。「得体のしれない」という形でよく使われる。</p> <p>② 「うらうら」は、太陽が明るくのどかに照るさま。心が穏やかでのかなさま。「うららか」と同義である。</p> <p>③ ただの物体でなく、生物であることを示すような記述を探す。この問いは、傍線部と正答部分が離れているが、見つけられずに焦ってしまったり諦めたりせずに、文章全体をよく読んで探すことを指導する。57行目に「花でいっぱいになって表面のくもったビニール袋」とあり、花が生物であり呼吸をしていることがわかる表現である。</p> <p>④ 「花のかたちをたもった」の同意表現「花のかたちを持った」(54行目)に注目させる。その前の「まだ生きてますからね」から捉えさせる。</p> <p>空欄の前後の表現に注目させる。</p> <p>なんだかわからないが、こわかった。</p> <p>怒られているのではないのだが、③。</p>
<p>重要語句</p> <p>○おしべ⇨花の中にあつて、花粉をつくるはたらきをするもの。</p> <p>○めしべ⇨花の中心にあつて、花粉をうけて実や種をつくるところ。</p>			

【指導のポイント】

- ★歴史的かなづかいの直し方を理解させる。
- ★省略された主語や会話を的確に捉えさせ、文脈をつかませる。
- ★返り点と送り仮名のきまりを覚えさせる。

演習問題		問題番号	ページ	指導内容・留意事項など				
(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	(P34)	1	「整理しよう」①を確認させる。語頭と助詞以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」に直す。 ウは、小童が「指出した」ので、主格である。主語を示す「の」の用法を確認させる。 登場人物を確認させる。水がほしいと「云ける」のは禪師で、「聞」いたのは小童である。動作主を確認しながら読んでいくとわかりやすいことを指導する。 A 受け取ったものが何かを読み取らせる。 端割れたるひきれに水を入、 = 指出したるをとるとして、 = 指出したるをとるとして、 かたわれ月に見ゆるかな B 「掛詞」とはどのようなものを理解させる。(注)の「もち」のところも確認させ、どういう効果があるのか考えさせる。 「係り結び」について確認させる。 【係助詞】 【文末のかたち】 【意味】 ぞ・なむ 連体形 強調 や・か 連体形 疑問・反語 こそ 已然形 強調 最後の「わりなくこそ」が指している内容を捉えさせる。小童が「とりもあへず」返答したことについて禪師は感動したのである。 文中の表現 「胸中正しければ、則ち眸子瞭らかなり」 ⇔ 「胸中正しからざれば、則ち眸子□□」 この対比の構造を理解させる。そのうえで、「瞭らかではない」という意味の語が入ることを捉えさせる。 「良き」の後に、「もの」という語が省略されていることを捉えさせる。 設問の漢文に、読む順番に番号を振らせて整理させる。整理しよう④を確認し、二字以上返って読む場合はレ点ではなく、一、二点を用いることをおさえる。 「胸中正しければ、則ち眸子瞭らかなり」に注目させる。 正答以外の選択肢の慣用句の意味も確認させておく。	
(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	(P37)	6	3	五言・七言は一行の文字数、絶句(＝四行)・律詩(＝八行)は行数を表すことを指導する。 漢文に読む順番の数字を振らせるなどして整理させる。また、送りがなも忘れずに書かせる。 最終行(結句)の「独釣寒江雪」の内容を理解させる。三句目に「翁」とあるので、釣りをしているのは老人であるとわかる。 レ点と一、二点が混在するため、混乱しないように、まずは読む順番の数字を振らせて確認させる。 四句の「梅と併せ作す」に注目させ、何と梅を「併せ」、何を「作す」のかを三句から捉えさせる。 「けおされて」の直前に注目させる。「遅き梅は、桜に咲きあひて、覚えおとり」、けおされるのである。 Iの詩は「十分の春」、IIの古文は「梅」や「桜」について述べている。どちらも春の情景の趣について述べていることから、ウが正答となる。 係り結びの法則について確認させる。 「枕詞」とは、特定の語の前に置いて語調を整える言葉。「ひさかたの」は「天」「雨」「光」などにかかる。 ○枕詞の例 ・あしひきの…山、峰 ・ちはやぶる…神 ・たらちねの…母 「整理しよう」①②を確認させ、語頭と助詞以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」に直すことをつかませる。 誰が誰に「よばひわたりけり」であるのかを理解させる。 (2)より、男が女に強い恋心を抱いていることを捉えさせる。また、男が后ではなく、后に仕える女に恋心を抱いていることに注意させる。 A 各月の陰暦の名称を覚えさせておくことよい。 B 「ものごしにあひにけり」から、男と女が物を隔てて対面したことを確認させる。「へだつる関をいまはやめてよ」から、隔てるものを取り払いたいくらい、強い恋心があるということをつかませる。 男が「ひこ星を…」の歌を女に送ったことを捉えさせる。

7

詩歌

◆指導ページ P.38～43◆

【指導のポイント】

- ★詩歌の表現形式を覚えさせる。
- ★詩歌の表現技法に注目させ、その効果を理解させる。
- ★作者の伝えたいことや感動の中心を捉えながら、詩歌を鑑賞させる。

演習問題		問題ページ	指導内容・留意事項など
(3)	(2)	3(1)	<p>「整理しよう」②より、この詩が擬人法を用いて書かれていることを捉えさせる。「コスモス」を人のように捉えて、人間と対比させる形で、コスモスの素晴らしさを表現していることをつかませる。選択肢の中で擬人法が用いられているのは、「木枯らし」が「帰る」と表現しているイである。</p> <p>3行目「それぞれの色を大切にしながら支え合っている」</p> <p>鑑賞文「お互いの個性を尊重しあいながら」</p> <p>この二つが対応していることに注目させる。</p> <p>A まず、詩の中の、人間に関する記述がある箇所を指摘させる。そしてお互いの個性を尊重しあい……自分なりに一生懸命に生きる</p> <p>⇔対比</p> <p>それとは対照的な人間の姿</p> <p>という構造を理解させる。問題文の「具体的に表現されている連続した二行」という指示から最適なものは13、14行目である。</p> <p>B コスモスの姿については、7行目に「あなたたちの美しさ」とある。これに対応する形で、15行目に「人の愚かさ」とある。</p> <p>作者はコスモスに対して、その美しさに感動し、その姿について詩を書いている。7行目の「人があなたたちのそばに在りたい」と願っても受けつけない、12行目の「あなたたちのそばに在りたい」という表現からは、「驚き」「軽蔑」「怒り」の気持ちは読み取ることができない。コスモスに対する強いあこがれの気持ちが読み取れるので、アが正答。</p> <p>まずそれぞれの短歌がどこで切れるのかを確認させておく。Cの短歌は「鞭のごと」に直喩が用いられている。</p> <p>「垂乳根の」は「母」を導く枕詞である。有名な枕詞について、百人一首の短歌などなじみのある題材を用いて、理解させるとよい。</p> <p>「この地におとずれた季節の厳しさと見る者の心をひきしめるような緊迫感」とあるので、Dの短歌の中の季節がわかるような表現に注目させる。「厳しさ」「心をひきしめる」から、寒さの厳しい冬のように示している語が最適となる。</p> <p>字余りの句がどこにあるのか、各句を数えて確認させる。</p> <p>メモの「内容」の項目の「子ども自身の優しさ」についてが書かれていないことに気づかせる「子ども自身の優しさ」の内容について、短歌の内容を捉えて答えさせる。</p> <p>「ぬ」が完了の助動詞「ぬ」の終止形で、ここで意味が切れていることを捉えさせる。</p>
(3)	(2)	(P41) 2(1)	
(3)	(2)	(P40) 1(1)	
(4)	(3)	(P43) 5(1)	
(3)	(2)	(P42) 4(1)	
演習問題		問題ページ	指導内容・留意事項など
(5)	(4)	(3)	<p>「見き」「けり」「入りぬ」など、昔の書き言葉で書かれているため、文語詩である。また、各行が一定の音数を持つているため、定型詩である。この詩は五七調で書かれているが、実際に音読させてリズムを体感させるのもよいだろう。</p> <p>「さびしかりけり」「道なり」などが繰り返されている(＝反復法)。また、第一連の3、4行目などは対句になっている。第八連の「山川に山がはの音」「からまつにからまつのかぜ」は体言止めの手法である。</p> <p>①「果てしないように思える道」を示している表現が「分け入っても分け入っても」であることを捉えさせる。</p> <p>② 第八連に「常なけどうれしかりけり」とあることから、わびしさの中にも喜びがあるといっていることを捉えさせる。</p> <p>俳句は音数が定められていたり季語が使われたりするのが一般的であるが、このような決まりにとらわれない自由律の俳句があることをおさえる。種田山頭火や尾崎放哉などの代表的な作者も覚えさせる。</p> <p>まず、俳句Bの季語が「赤蜻蛉」で、秋の季語であることを確認させる。寒い季節になっていくことと、「淋しき木」の印象が重なりあっていることを理解させる。</p> <p>結句に注目させ、倒置法で情景を印象づけようとしていることを捉えさせる。</p> <p>初句で「海恋し」と終止形になっていることからわかる。</p> <p>「炎天」は夏の季語である。</p> <p>「整理しよう」④より、切れ字について確認させておく。「ひとつぶや」の「や」で、感動の中心を表している。</p> <p>A 「柳あをめる」という語から、季節が「春」であることを読み取らせる。また、「泣けとごとくに」から、せつない気持ちを捉えさせる。</p> <p>B 「水すまし」という小さな生物のことを詠んでいる。また、「汝が勢ひよ微かなれども」から一生懸命に生きている情景を理解させる。</p> <p>C 「潮の遠鳴り」という語から、情景が聴覚で説明されていることを捉えさせる。</p> <p>D 「遠き帆」という語から、思い出を遠くにかける寂しさが読み取れる。</p> <p>E 石の上にある「金剛の露ひとつぶ」の情景しか描かれていないことから、小さな一点に注がれた視線から詠まれた歌だということを捉えさせる。</p>
(5)	(4)	(P43) 5(1)	
(5)	(4)	(P42) 4(1)	
(5)	(4)	(P43) 5(1)	
(5)	(4)	(P42) 4(1)	

表現・作文

◆指導ページ P.44～49◆

【指導のポイント】

- ★文法的に適切な文の書き方を指導する。
- ★資料に書かれていることを正確に読み取り、表現できるようにする。
- ★与えられた条件に注意して文が書けるようにする。

演習問題		問題番号	ページ	指導内容・留意事項など
(3)	(2)	(1)	7	<p>主述関係を確認させる。痛感したのは「私」である。「…のは、」の場合は「ことだ(ことである)」で受けるのが正しい表現である。</p> <p>「もしかしたら」の場合、文末を「かもしれない」とする。</p> <p>「もし」は仮定の表現であるため、「もし…たら(なら)」の形がふさわしい。</p> <p>「まるで」は「ようだ」などで受ける。</p> <p>お店などで耳にする機会が多い表現だが、ア、イ、エは不適切な表現であることを確認させる。</p> <p>ア「お(こ)する」は謙讓表現で、自分の動作に使うが、それを相手の行為に対して使っている。</p> <p>イ「くになります」は本来、別の状態になるときに使われることを確認させる。</p> <p>エ「から」は不要な表現。</p> <p>「急いで」が「警察」にかかるか「犯人」にかかるかによって文意が変わってくることを理解させる。二通りに解釈できる書き方をすると、日常生活で誤解を生む場面があるので、具体例を挙げて、注意するように指導する。</p> <p>①② 自分の動作をへりくだって、相手に敬意を示すので、謙讓語がふさわしい。</p> <p>③ 書類を送るのは自分なので、自分をへりくだる謙讓表現がふさわしい。</p> <p>④ 書類を見るのは相手なので、相手に対する尊敬表現「御覧(ごらん)になつて」がふさわしい。</p> <p>葉書の記載日に注目させる。二十四節気(にじゅうしせつき)について、とくに有名な事柄について覚えさせるとよい。(例)立春、夏至、大寒など)</p> <p>最近では電子メールや通信アプリなどの連絡手段も増えてきているが、葉書や手紙の基礎知識・マナーについても頭に入れておく必要がある。</p> <p>① 「先生が私にくれた」「私が先生からもらった」という主述関係を捉えさせる。</p> <p>②③ この文の主語が「言葉は」であることをおさえる。「私」「一生」が「宝物」を修飾する表現になるように、傍線部を書きかえる。</p> <p>理由を表す助詞「ので」があてはまる。</p> <p>空欄の直前のことが達成されれば直後のことが達成されるので、条件を示す「なら」があてはまる。</p> <p>「大風」にさらに「雨」が付け加えられるので、添加の意味の副助詞「さえ」があてはまる。</p>
(P47) 6	(P46) 5	(1)	6	
(2)	(1)	(2)	5	
(3)	(2)	(1)	4	
(P47) 6	(P46) 5	(1)	3	
(2)	(1)	(2)	2	
(3)	(2)	(1)	1	

演習問題		問題番号	ページ	指導内容・留意事項など
(P49) 12	(P48) 11	(1)	10	<p>「たぶん…だろう」で推量の表現となる。</p> <p>様態を表す「そうだ」を理解させる。</p> <p>「た…え…でも、決して…ない」というのは、強い意志を示す構文である。</p> <p>会話文の内容から読み取れる情報を簡条書きにして書き出させ、内容を整理させるとよい。また、相手に話しかけるのにふさわしい表現方法を指導する。</p> <p>《イ》の直前で、翔太が「観光に来る方の数は、どのように変化していますか」と尋ねていることに注目させる。尋ねている内容が観光客の数であり、高田は具体的な数値を発言していないのに会話が継続していることから、ここで資料を示したと判断できる。</p> <p>いきなり最初から文章にまとめようとすると取り組みにくい生徒もいるので、まずは書くべき事柄を整理させてからまとめさせるなどの工夫が必要である。</p> <p>生徒が題材に困る場合は、最近起きた出来事などを振り返らせるなどして、生徒が題材を思いつきやすいようにサポートすることも必要だろう。</p> <p>また、原稿用紙の正しい使い方を改めて確認させておく。</p>
(2)	(1)	(2)	9	

〈原稿用紙の使い方〉

- ・段落の書き出しは1ます空ける。
- ・会話文は「」でくくり、改行して書く。
- ・句点と会話を閉じるかぎ(「)は合わせて1ますに書く。
- ・句読点や会話を閉じるかぎ(「)は行頭に書かない。(前の行の最後のますに文字と一っしょに書く。または、欄外に書く。)
- ・縦書きの場合、数字は原則として漢数字で書く。